

添付資料1

事業計画書

事業種別	<input checked="" type="checkbox"/> 課題解決事業 <input type="checkbox"/> 提案型協働事業（継続団体のみ）
事業名称	フリースクール連携プログラミング部活動「セタプロ出張部室」
事業概要 (300 字以内)	<p>私たちは小中学生向けの学校横断型プログラミング部活動「セタプロ部！」を運営する非営利団体です。</p> <p>いま、フリースクールや学習塾をはじめ、学校以外で学べる場が増えていますが、しかし「部活動」だけは、学校に通っていないと参加できません。</p> <p>プログラミングなら、パソコンがあればどこでもできる。でも 1 人では続かない。仲間と一緒に、目標に向かうから夢中になれる。</p> <p>本事業では、区内のフリースクールにノート PC を備えた「出張部室」を設置し、学校の枠を超えた部活動への参加機会を届けます。学校に行かなくても、好きなことに夢中になれる部室を、子どもたちのいる場所に届けます。</p>
1 課題解決	
解決を目指す地域課題や社会的課題	<p>世田谷区の不登校小中学生は令和 4 年度に 1,540 人と 6 年間で約 2.8 倍に急増し、その割合は全国・東京都平均を上回っています（出典：世田谷区教育委員会「不登校支援ガイドライン」令和 6 年 3 月）。</p> <p>彼らが学校以外で学べる場は、近年着実に広がってきました。世田谷区でも、ほっとスクール（教育支援センター）や「学びの多様化学校」の開設など、学校以外の学びの選択肢を広げる施策が進んでいます。フリースクール、学習塾、習い事、オンライン教材など、子どもたちが「学ぶ」ための選択肢は、確かに多様化しています。</p> <p>しかし「部活動」だけは、依然として学校の中にしかありません。同じ興味を持つ仲間と出会い、継続的に好きなことに打ち込める場が学校の外にはほとんど存在しないのです。</p> <p>プログラミングのように本来パソコン 1 台でどこでもできる活動でさえ、一人で続けるのは難しく、多くの子どもは途中で興味を失ってしまいます。</p> <p>ただ、リアルな部活で仲間と出会うためには、特定の場所・時間に集まる必要があります。フリースクールに通う子どもにとって参加のハードルが高い現実があります。</p> <p>そこで「出張部室」という発想で、オンライン上で他校の仲間と作品を共有したりコミュニケーションをとったりできる「部室アプリ」が入ったノート PC をフリースクールに設置し、子どもたちがいる場所に部活動を届けます。</p>

参考画像①「部室アプリ」のプログラミング課題一覧の画面↓



参考画像②「部室アプリ」で部員の活動や作品が共有される画面↓



参考画像③2026年4月から始まったリアル部室での活動の様子↓



期待される具体的な区民・地域への波及効果	<ul style="list-style-type: none"> ・学校に通っていない子どもが「部活動」という形でプログラミングに夢中になれる機会を得られます ・出張部室をオンラインで結ぶことにより、異なるフリースクールの子ども同士が学校や場所を越えてつながり、好きなことで仲間ができます ・フリースクール運営者の負担を増やさずに届けられるモデルを確立し、区内の他施設にも横展開できます ・保護者にとっても、子どもが夢中になれるものを見つける一助となります
実施場所	<ul style="list-style-type: none"> ・連携フリースクールに設置する「出張部室」 ・セタプロ部！部室（東京都世田谷区尾山台）
事業の対象者・予定人数	<ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区内のフリースクールに通う、プログラミングに興味・関心のある小学生～中学生 ・初年度の対象人数：約 20 名 <p>※PC3 台～最大 12 台を、区内のフリースクール数校に設置する。一校あたりの PC 設置数は、生徒数や希望者の人数によって調整する。</p>
2 成果目標	
成果目標	<ol style="list-style-type: none"> 1.フリースクールと連携して、12 台のプログラミング用 PC を設置する。 2.フリースクールに通う子どもたちが、実際に部活動に参加し、プログラミングの楽しさや、仲間の存在を体感できること。
成果目標の測定方法	<ol style="list-style-type: none"> 1. PC 設置台数を記録する 2-1. 部活動アプリへのログインと課題の実施状況を計測する。 2-2. 参加者へのアンケートを実施する。
3 将来性	
<p>今後の展開 * 事業の発展や自立に向けての目標・考え方など</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・横展開：初年度で確立した「出張部室」モデル（フリースクールへの PC 貸与+オンラインでの他校連携）を、世田谷区内の他のフリースクール・居場所へ順次拡大。施設側の負担が少ないため、スケールしやすい仕組みです。 ・自立運営：セタプロ部！は協力企業からの寄付を基盤に運営しており、補助終了後も継続可能な体制です。クラファンを通じて新たな支援者・ファンを獲得し、自主財源の多様化を図ります。
4 実現可能性	
事業実施期間	令和 8 年 6 月（選定結果通知後）～ 令和 9 年 3 月 31 日
<p>実施内容 (いつ、だれが、どこで、何を、どのように行うのか、実施する内容を具体的にご記載ください)</p>	<p>【実施内容】</p> <p>本事業では、独自開発した「部室アプリ」を活用して部活動を実施します。フリースクールの子どもたちは、出張部室 PC から自分の校舎を出ることなく、既存の部員と一緒に活動に参加できます。</p> <p>◆現状のリアル部室の実態</p>

<p>・週 2 回、16:30～18:30 に部室をオープン ・1 回あたり 5、6 人が参加 ・開催内容 ①リアル部室に集合:必要に応じて自己紹介 ②チェックイン:「部室アプリ」にログイン ③プログラミング活動:部室アプリ内の共通課題に取り組む。 ④チェックアウト:参加者が一言ずつ活動を振り返って、解散</p> <p>◆フリースクールの子どもたちの参加スタイル ・フリースクールの出張部室 PC からログインする。 ・活動時間:以下のいずれかを想定。 ・リアル部室と同時にリアルタイムで活動する。 ・フリースクールの時間割にあわせて活動し、課題の進捗などが他の拠点と共有される。 ・慣れてきたら、セタプロの部室(尾山台)でリアルに参加することも可能 ・学校を越えて、部員同士が成果物をレビューし合う仕組みも導入予定</p> <p>【連携予定のフリースクール】 ・学び舎トーカ 用賀、自由が丘、祖師谷など世田谷区を中心にキャンパスをもつフリースクール</p> <p>・てらこや maple 東京都世田谷区中町(等々力)に所在する、アート教室・不登校支援フリースクール</p> <p>※2026 年 4 月時点で、連携に向け協議中。</p> <p>【スケジュール】 ※補助事業選定後、事業開始から終了までスケジュールをご記入ください。</p>	
実施月	内 容
6 月	1 校目のフリースクールとの協定締結、PC 手配・セットアップ (3 台を予定)
7 月	1 校目に出張部室を設置、子どもたちへの導入
7～9 月	1 校目で通常活動を開始。運営ノウハウの蓄積・改善
10 月～12 月	クラファン実施。活動実績を広報素材に活用。寄附額にあわせて、台数もしくは校数追加の交渉を開始。
1～3 月	寄附額にあわせて出張部室を追加展開。

<p>トラブルへの対応 (想定されるリスクと その対処方法)</p>	<p>【リスク】子どもが PC で動画視聴等に偏る 【対処】部活専用 PC として用途を限定。フリースクール代表者と利用ルールを事前に合意する</p> <p>【リスク】参加者が集まらない 【対処】まず関心の高い子ども数名から小さく始め、「一人が始めると周りもやりたくなる」自然な広がりを活かす</p> <p>【リスク】オンラインでのトラブル（誹謗中傷等） 【対処】出張部室のオンライン環境は招待制・実名制で運営。活動時間中はセタプロのスタッフが見守る。</p> <p>【リスク】機材の故障・紛失 【対処】複数台体制を確保。協力企業ソニックガーデンによるメンテナンス体制あり</p>
<p>7 クラウドファンディング</p>	
<p>総事業費</p>	<p>1,197,600 円 ※事業収支計画書【収入】合計・【支出】合計と同額</p>
<p>補助金目標額</p>	<p>898,200 円 ※事業収支計画書【支出】補助対象経費計と同額</p>
<p>寄附目標金額</p>	<p>600,000 円</p>
<p>寄附金上限設定額</p>	<p>600,000 円</p>
<p>実施希望時期 (最大3か月)</p>	<p>令和 8 年 10 月 1 日 ~ 令和 8 年 12 月 31 日</p>
<p>寄附を募るターゲット層</p>	<p>【地域の支援者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・世田谷区在住・出身で、教育や子どもの居場所に関心のある方 ・セタプロ部！の保護者・地域住民、尾山台商店街・PTA 等まちづくり関係者 ・不登校支援・フリースクール関係者 <p>【全国のオンライン支援者】（ふるさと納税の仕組みを活用）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ソニックガーデンの全国のクライアント・関係者（IT 業界ネットワーク） ・まつもとゆきひろ氏（Ruby 開発者）に代表される、Ruby・OSS コミュニティのプログラマー ・プログラミング教育・デジタル教育に関心のある全国の方

<p>広報活動計画</p>	<p>1. 事前準備（公開前）：セタプロ公式 note・SNS で事業の背景ストーリーを連載。理事や協力企業のネットワークを通じた個別事前告知で「最初の輪」を形成</p> <p>2. 公開直後：プレスリリース配信、IT・教育系メディアへのアプローチ、関係者への一斉告知で初速を確保</p> <p>3. 期間中：活動の様子を定期的に note・SNS でレポート。子どもたちの変化・成長のストーリーを発信し、共感の輪を広げる</p> <p>4. 全国ネットワーク連動：ソニックガーデンの全国クライアント・関係者、Ruby/OSS コミュニティへの情報発信を連動。まつもとゆきひろ氏の応援メッセージ等のコンテンツを活用</p>
<p>8 クラウドファンディング</p>	
<p>寄附目標額を達成しなかった場合の対応</p>	<p>寄附が目標額に達しない場合でも、事業規模を調整して必ず実施します。セタプロは協力企業からの寄付を基盤に運営しており、これにより少なくとも1施設の「出張部室」設置は、寄附の結果にかかわらず必ず実施します。</p> <p>寄附額に応じて以下のように段階的に事業規模を拡大する、スケーラブルな設計としています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最低ライン（自己資金）： →1施設/3台を設置 ・目標額の 1/2 達成: 寄付 30 万円+補助金 15 万円=45 万円 →自己資金とあわせて、追加で 5 台を設置 ・目標額 100%達成:寄付 60 万円+補助金 30 万円=90 万円 →追加で 9 台を設置
<p>寄附目標額を超えた場合の対応</p>	<p>寄附金の上限設定額を目標額と同額（60 万円）に設定しており、目標額を超える寄附は受け付けない設計としています。</p> <p>運営体制のマンパワーに限界があるため、初年度は無理に規模を拡大せず、翌年度以降の連携校拡大に備えます。</p>

【継続事業のみ入力】

<p>4 前年度成果</p>	
<p>前年度成果目標</p>	<p>※前年度提案書記載内容</p>
<p>前年度成果目標の測定方法</p>	<p>※前年度提案書記載内容</p>
<p>前年度成果目標に対する結果</p>	
<p>5 前年度クラウドファンディング</p>	

前年度寄附目標額 (補助金目標額)	円 (補助金目標額: 円)
前年度寄附金額 (補助金交付額)	円 (補助金交付額: 円)

5 協働

【提案型協働事業のみ入力】

協働する必要性	
役割分担 (提案団体)	
協働事業を継続する理由	
将来の展開	

【提案型協働事業のみ 区事業担当課入力欄】

区担当課名	
協働する必要性	
役割分担 (区担当課)	
将来の展開	

団体名	一般社団法人セタプロ
-----	------------

事業収支計画書

☆今回提案する事業に要する予算のみ(×団体の年間予算)を入力してください。

【収入】

費目	内容	金額(円)	内訳(積算根拠)
自己資金	1校目のPC	299,400	99,800円 × 3台
区補助金	2~4校目のPC	898,200	99,800円 × 9台
他補助金	-	0	
【収入】合計		1,197,600	※事業計画書「総事業費」、【支出】合計と同額

【支出】

☆補助事業以外にかかる経費(他事業に要する人件費・消耗品費、事務所賃借料、光熱水費等)は補助対象外です。必ず、募集要領5. 補助対象経費をご確認の上、ご作成ください。

費目	内容	金額(円)	積算根拠(品目・単価・数量等)
補助対象経費	人件費		
	[小計]	0	
	報償費		
	[小計]	0	
	交通費		
	[小計]	0	
	需用費	ノートPC	898,200
[小計]	898,200		
役務費			
[小計]	0		
委託料			
[小計]	0		
使用料・			

	賃借料			
	[小計]		0	
	その他			
	[小計]		0	
[補助対象経費 計]			898,200	※事業計画書「補助金目標額」と同額
費目	内容	金額 (円)	内訳(積算根拠)	
補助対象外経費	需用費	ノートPC	299,400	99,800円 × 3台
[補助対象外経費 計]			299,400	
【支出】合計			1,197,600	※事業計画書「総事業費」、【収入】「合計」と同額

☆必要に応じて、行を増やして作成してください。

添付資料 3 6 実施体制

団体の概要

設立年月日 (活動開始)	令和 7 年 12 月 15 日			
法人番号 (該当団体のみ)	4010905004883			
団体の設立目的	国が進める「部活動の地域移行」および「DX 人材育成」への対応 世田谷区内における中学生の「第三の居場所」不足の解消 専門的な技術を持つ指導者の不在への対応			
主な活動分野	「地域と会社でつくる部活動」をコンセプトとした、 中学生向けプログラミング教育およびキャリア支援			
社員数・会員数 (うち世田谷区在住)	2 人 (うち世田谷区在住 1 人)			
会費	無			
主な活動地域	世田谷区			
主な活動実績	令和 7 年 12 月:一般社団法人設立 令和 7 年 12 月:キックオフイベント開催 令和 8 年 4 月:部活動スタート			
運営状況(直近 3年間)		令和 7 年度 (見込み)	年度	年度
	総収入	3,000,000 円	円	円
	総支出	2,428,366 円	円	円
	損益	571,634 円	円	円
過去のクラウドファンディング活用実績	無			
当年度の活動予定	<ul style="list-style-type: none"> ・部員一期生を迎えて、実際に部活動を実施(毎週 2 日を予定) ・プログラミング教材の充実。 			

<p>事業実現のための体制 (人材、連携・協働関係等)</p>	<p>【人材】 ・代表理事 理事長:藤原士朗 株式会社ソニックガーデン代表取締役副社長。世田谷区に 20 年在住。PTA 会長、まちづくり会社経営を通じて地域活動と教育に深く関わる。2026 年度の尾山台小学校学校支援コーディネーター。</p> <p>・代表理事 副理事長:松下雅征 株式会社ユイロ代表取締役社長。教育領域 15 年の経験。『13 歳からの進路相談』著者。通信制高校サポート校「ユイロ高等学院」を 4 年間運営。</p> <p>【連携】 世田谷区で活動する以下の 2 名がセタプロ理事として参画しており、運営に助言・協力。 ・高野 雄太(尾山台商栄会商店街振興組合 理事長 / 一般社団法人おやまち プロジェクト 代表理事) ・高橋 明子(一般社団法人 CO-SAKU 谷 代表理事)</p> <p>【支援】 世田谷区尾山台に本社を置くソフトウェア開発企業ソニックガーデンが、セタプロ部の設立および運営を、資金・場所・人材の面から全面的に支援。</p>
-------------------------------------	--

令和8年度 世田谷区市民活動支援補助金(せたチャレ!) 質問書兼回答書

※提案書及び見積書の審査にあたり、以下の項目について質問します。

※回答は、**令和8年5月14日(木)午後5時まで**に、電子メールに添付させたチャレ!事務局あてにご提出ください。

●提出年月日:2026年5月12日

●団体名:一般社団法人セタプロ

NO	団体名	質問箇所	質問件名	質問内容	団体回答
1	一般社団法人セタプロ	事業計画書	部員同士のコミュニケーションについて	リアル部室において、集合時の自己紹介とチェックアウト時の振り返り以外で部員同士のコミュニケーション(雑談や教えあい等)はありますでしょうか。 また、フリースクールの子どもたちが他校の部員とのコミュニケーションを行うツールは、今後実装予定の成果物のレビュー機能との認識でよろしいでしょうか。他にもコミュニケーションツールはありますでしょうか。	<p>>雑談 →自然発生的にあり。また、プログラミング学習とは別に、親睦を深めるイベントも用意しており、4月には日曜にカレーパーティーを開催し、部員とその保護者が参加しました。</p> <p>>教え合い →現状、少しずつ出てきた状態です。今後、部員間の先輩・後輩間で教える関係性を作っていこうと考えています。</p> <p>>フリースクールの子どもたちが他校の部員とのコミュニケーションを行うツールは、今後実装予定の成果物のレビュー機能との認識でよろしいでしょうか。 成果物のレビュー以外にも、コミュニケーションの手段を用意します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「つぶやき機能」(実装済み) ・20文字以内で短文メッセージを共有する簡易コミュニケーション機能。トラブル防止のため、個別の返信は不可。 ・アプリ内で部員が公開した作品に感想をコメントする機能(実装予定)
2	一般社団法人セタプロ	事業計画書	リアル部室への参加について	フリースクールの子どもがリアル部室に参加する流れのイメージとしては、運営側から誘うイメージでしょうか。それとも、子ども側から希望の声が上がった際に対応するイメージでしょうか。想定があれば教えてください。	<ul style="list-style-type: none"> ・合同発表会といったイベントを開催し、部室を越えて各地の参加者がリアルに交流できる日を設定しようと考えています。 ・本人が希望すれば、フリースクールからの参加ではなく、他校の子どもも通っている尾山台のリアル部室での参加に切り替えることも受け付けます。